
Re:「愛してる」

初恋

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

Re:「愛してゐる

【著者名】

ZZマーク

N16336F

【作者名】

初恋

【あらすじ】

女を道具としか考えないホストとある女性の物語

ヒストリー

俺は超能力者なのかもしない、なぜなら人をいのままに操れるからだ。

まあ、その対象は「女」だけだが。

今思えば彼女も超能力者なのかもしない……。

「誠也さん3番テーブルに指名はいました。」

黒いスーツを着た男が誠也の耳元でこじれで囁いた。

「分かった」 誠也は小声でその男に返事をした。

「『めん、指名はいたから行くね』 誠也は横にいる派手なドレスを着た30代後半の女に言った。

「ええ、まだ1時間もたつてないじゃん、もつと話しそうよ~」 女は誠也の腕をつかみぶりつ子のような口調で誠也を引き止めた。

「俺も本当はもつと三咲さんといいけど、お姉さんよんでもるから、ねえ、これで今日は我慢して」 誠也は三咲のおでこに優しくキスをした。

三咲はそれ以上はなにも言ひていはず、突然の誠也からのサプライズに頬を赤らめた。

誠也はその三咲の様子を見て口の中、「ふつ」と笑った

3番テーブルへ向かつ途中にそれをほほえ小声でしゃべった男がちかづ

いてきた

「どうですか、さつきの客、上手ですかね？」

「あいつはだめだ、金の匂いがしない、多分後2・3回きたらおしまいだな。」

「そうですか、いい感じしたんだけどな・・・」男は残念そうな顔しながらさつて行つた

「「めんね、待たせて」」そいつて誠也は3番テーブルにすわった
「遅い！ もつとはやく来てよ なんなのさつきのテーブルにいた女」この女は鏡子、この店に月100万は落とす、いわゆる（太い客）だ

「まいいわ 今日は何本ドンペリ入れちゃおつかなあ～」 そういうながら鏡子はかばんから札束を取り出した

誠也は六本木の一流ホストクラブ「ジヒイド」のナンバー1ホストである、18からこの世界に入つてもう7年になる、4年前からナンバー1でその座を4年間守ってきた。

誠也この世界に入る前から女は金を落とす道具としてしか考えてい

なかつた。

この物語は女は金としか考えないホストとこれから誠也の前に現れる女性との物語である。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1636f/>

Re:「愛してる」

2010年10月29日13時22分発行